



EQUINIX

ビジネスを“つなぐ”場所

クラウドサービスとのダイナミックな相互接続で
企業に競争力強化をもたらす

インターコネクション入門

エクイニクス ホワイトペーパー



クラウドサービスとのダイナミックな相互接続で企業に競争力強化をもたらす3

マルチクラウド時代の企業が抱える課題とその対策4

ユースケース1: クラウドに保管できないデータへの通信遅延解消5

ユースケース2: スパイク時の処理をクラウドにオフロード6

ユースケース3: 複数クラウドの機能を「良いところ取り」7

クラウドサービスとのダイナミックな相互接続で企業に競争力強化をもたらす

マルチクラウド時代に求められる新しいITプラットフォーム

オンプレミスとクラウド、あるいはクラウド間のネットワーク構築は、マルチクラウド時代において大きな課題となっている。システム構成が複雑化する中、通信遅延やセキュリティ、接続先の自由度、コストなどさまざまな要件を高い水準で満たすことが重要だ。そこで注目されるのが、データセンター内で提供されるダイレクトな相互接続（Interconnection）サービスである。さまざまなクラウドサービスとダイナミックに接続できるサービスを上手に使うことで、これからの企業の競争力を強化できる。

マルチクラウド時代の企業が抱える課題とその対策

今日では、大多数の企業がクラウドを活用している。複数のパブリッククラウドを用途や目的に応じて使い分けたり、プライベートクラウドと組み合わせて利用したりするケースも珍しくない。だがマルチクラウドの採用が進むにつれ、クラウド間のデータ連携という新たな課題が顕在化してきた。インターネットを経由すれば遅延やセキュリティの懸念があり、データセンター間をWAN回線で接続しようとするればコストが問題となり柔軟性も劣る。さらにマルチクラウド化でシステム構成がより複雑になり、その管理も煩雑だ。

このクラウドとの接続を、あたかもクラウドプラットフォーム上にインスタンスを立ち上げるような感覚で迅速かつ手軽に利用できるようになれば、企業がビジネスを加速させる上で大きな力となる。データセンター大手、米国エクイニクスが提供するの、まさにマルチクラウド時代に適した相互接続サービスだ。以下、その効果を、いくつかのユースケースに沿って見ていこう。

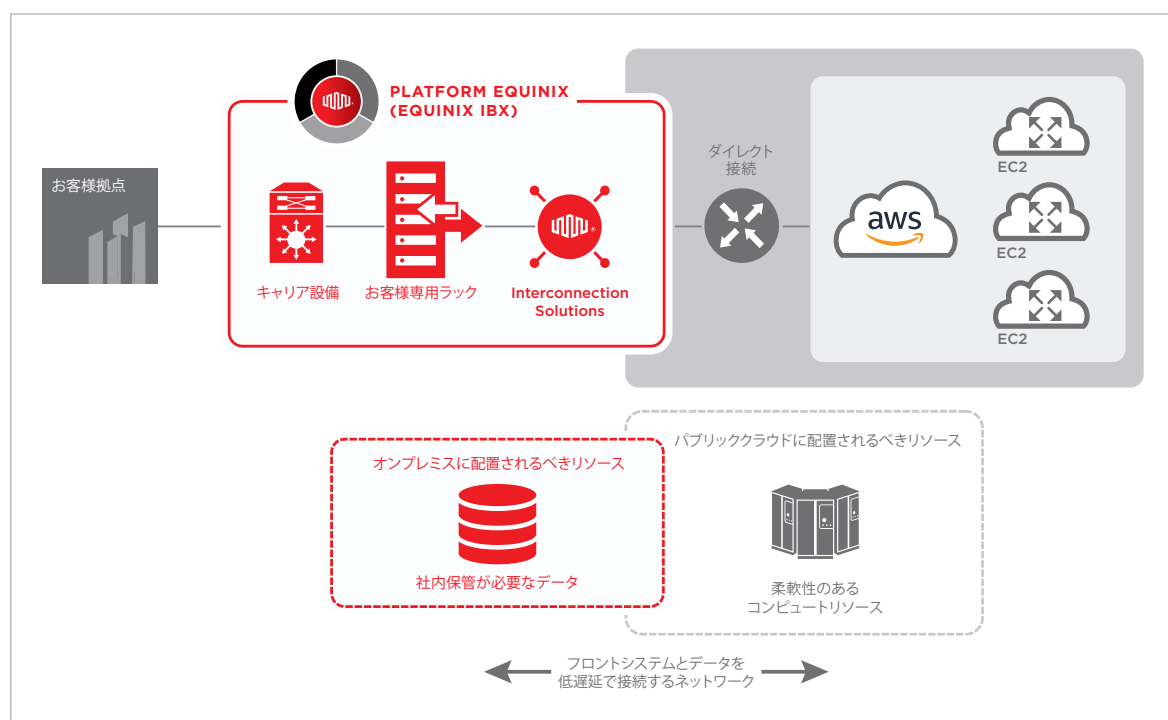


ユースケース1 クラウドに保管できないデータへの通信遅延解消

業種 : 運輸業
システム要件 : 顧客情報と連動したスマートフォンアプリ顧客データはオンプレミス保管が必須
ビジネス課題 : スマートフォンアプリのレスポンス遅延クラウドへの確実なデータバックアップ
採用サービス : キャビネット (ラック)、クロスコネクト

ポリシーにより制約される企業も多い。だが、クラウドを活用して迅速なビジネス展開を果たさなければ競争力は維持できない。

ある企業では、個人情報扱うシステムの運用を自社施設に限って行っており、顧客向けに提供するスマートフォンアプリでは、主な処理をパブリッククラウドで行っていた。しかし、会員情報の参照など一部処理はクラウドからオンプレミス環境のシステムにアクセスしなければならないため、その通信遅延がアプリのレスポンスを悪化させ、会員サービスのユーザーエクスペリエンスを低下させていた。



社外に出せないデータでも、その基盤をクラウドの近くに配置すれば、クラウドとの間で安全かつ高いパフォーマンスの連携が可能になる

そこで、解決策としてエクイニクスのデータセンターにオンプレミス基盤を構築する方法を選択した(下図)。エクイニクスでは自社データセンターから、数多くのクラウド事業者やネットワーク事業者に対するダイレクト接続サー

ビスを提供している。この相互接続サービスは低遅延・広帯域かつセキュアで、しかも通信コストも抑えられる。これを使うことにより、モバイルサービスのレスポンスは大幅に改善したという。同様に、オンプレミス環境のデータをクラウドにバックアップする際にも、安定的に時間内で処理が完了するようになった。

ユースケース2

スパイク時の処理をクラウドにオフロード

業種	： 製造業
システム要件	： 高速処理性能を持つ大規模コンピューティング基盤
ビジネス課題	： 資産化の減少、初期投資の効率化
採用サービス	： キャビネット（ラック）、メトロコネクト

IoT など最新のデジタル技術を取り入れたシステムを構築するためには大量のデータを高速に処理・分析するための高い処理性能を持つコンピューティング基盤が不可欠だ。

長時間にわたり高負荷状態が続く分析処理には、時間課金のパブリッククラウドよりむしろ自社で保有する方が安上がりになるといったケースも多い。その一方、処理負荷が大きく変動する可能性もあるため、基本はオンプレミス環境を使いつつも、ワークロードがスパイクした際に、足りない分をパブリッククラウドにオフロードできるようにしたいというニーズは強い。そうすれば自社で保有する資産を抑えることができる。

上記のような利用形態を可能にするのも、エクイニクスならではの相互接続サービスだ。分析に供するデータは非常に膨大で転送時間が課題となりがちだが、エクイニクスのデータセンターにラックを借り、クラウドとダイレクトに接続することで、短時間での転送を実現させた。この活用イメージは、バッチやオンライン処理など負荷変動の大きいケースにも適用できるだろう。恒常的な負荷ならコストが抑えられるオンプレミス、スケーラビリティに優れたパブリッククラウド、どちらのメリットも享受できる。



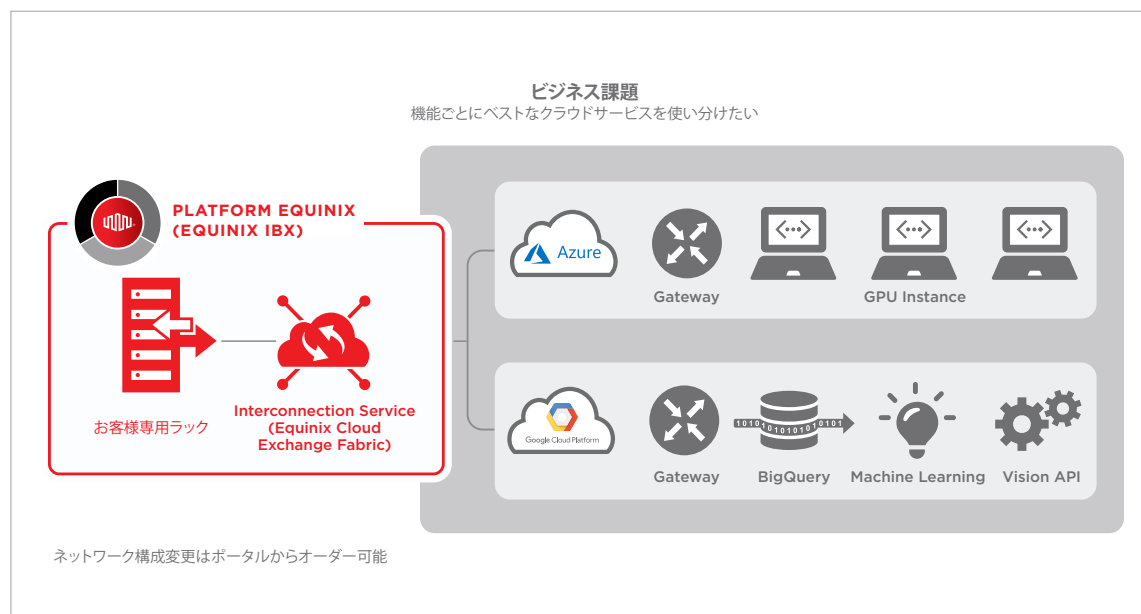
ユースケース3

複数クラウドの機能を「良いところ取り」

業種	： IT サービス業
システム要件	： マシンラーニングを採用したITサービス基盤
ビジネス課題	： ダイナミックなサービス開発とビジネス展開
採用サービス	： キャビネット（ラック）、ECX Fabric、ネットワーク機器レンタル

昨今、クラウド事業者各社がコグニティブ／AI（人工知能）といった特色あるサービスを相次いでリリースしている。その中で、ユーザー企業においてクラウドサービスを柔軟に切り替えたいという新しいニーズが見えてきた。エクイニクスの相互接続サービスの1つ、「Equinix Cloud Exchange™ Fabric（以下、ECX Fabric）」は複数のクラウドサービスとダイナミックな接続を実現する相互接続サービスであり、マルチクラウド環境のネットワークハブ機能として最適だ。

3つ目のユースケースは、まさにパブリッククラウドの「良いところ取り」を実現したものだ（下図）。ユーザーとしては、特定のクラウド事業者にとらわれず、その時々で最適なサービスを早く使いたいが、回線敷設のリードタイムが足かせとなってきた。ECX Fabric はダイナミックに接続先を切り替えることができるため、機能ごとに最適なクラウド事業者のサービスを選択することが可能になるのである。



ECX Fabric を介したハブ構成にすることで複数のクラウドを活用する上でのパフォーマンス、コスト、セキュリティの問題を解消する



EQUINIX

WHERE OPPORTUNITY CONNECTS

エクイニクス本社

Equinix, Inc
One Lagoon Drive
Redwood City, CA 94065
USA

電話 : +1.650.598.6000
電子メール : info@equinix.com

ヨーロッパオフィス

Equinix (EMEA) BV
Rembrandt Tower
Amstelplein 1
1096 HA Amsterdam
Netherlands

電話 : +31.20.754.0305
電子メール : info@eu.equinix.com

アジア・ パシフィックオフィス

Equinix Hong Kong Limited
Units 6501-04A & 6507-08, 65/F
International Commerce Centre
1 Austin Road West
Kowloon, Hong Kong

電話 : +852.2970.7788
電子メール : info@ap.equinix.com

エクイニクス・ ジャパン株式会社

〒103-6035
東京都中央区日本橋2丁目7番1号
東京日本橋タワー35階

お問い合わせ
電話 : 03-5657-1300
電子メール : sales-jp@ap.equinix.com

エクイニクスについて

エクイニクス (Nasdaq: EQIX) は、世界5大陸にわたる48都市でデータセンターを展開しています。エクイニクスのデータセンターは最も多くの相互接続を提供しており、その中で企業はビジネスにおいて重要な顧客、従業員、パートナーと接続しています。エクイニクスは、多くの企業が集まり、新しいビジネスチャンスを実現し、それぞれのビジネス、IT、クラウド戦略を加速する場所となっています。

企業のビジネスモデルが、相互に依存しあうデジタル経済において、インターコネクション (相互接続) はその成功への重要なカギです。エクイニクスは、相互接続の場を提供することで、世界中のビジネスをつなぐ場を提供しています。